



たかぎ
高木

きよたか
清隆
議員



**インフラ資産の維持
管理と更新に向けて**

問 令和6年度から令和37年度までの更新費用は。

答 各インフラ資産の補修実績と上下水道のマネジメント計画を基に試算すると、総額で約563億円、年平均18億円が見込まれ、これまでの更新費用の1.5倍となり、今後の財源確保が大きな課題である。

問 新たな基金の創設が必要では。

答 インフラ資産の維持管理・更新に備えた特定目的基金の創設や、既存の公共施設等適正管理基金の対象範囲の拡充、さらには、財政調整基金の残高目標の上方修正など、全体の財政運営の中で、財源の確保に努めていきたい。



公設の3つの幼稚園・保育園を統合した、民設民営の子育て支援センター「にじいろ」

**公共施設保有量の
適正化に向けて**

問 公共施設再編基本計画の策定が必要ではないか。

答 袋井市公共施設等総合管理計画の取組方針の一つである「施設保有量の適正化」が、最も必要な取組であると認識していることから、市民ニーズや施設の利用状況を慎重に見極めて、実効性のある計画となるよう検討していきたい。



てらだ
寺田

まもり
守
議員



人口減少時代への対応

問 本市の人口も8万8千人をピークにいいよ減少局面に入ったと危惧される。経済の大本を支えている工業生産、企業誘致の取組はどうか。

答 本市の製造品出荷額は直近の令和4年は7468億円と過去最高額となった。引き続き小笠山工業団地の早期分譲や愛野地区の開発検討などに取り組んでいきたい。

**アジアの成長を
取り込むには**

問 本市にはアジアからの誘客を促す地域資源が多く存在するがさらに活用すべきでは。

答 浅羽佐喜太郎公記念碑をはじめ、アジア諸国と本市の友好関係を象徴した観光資源があり、遠州三山風鈴まつりなどの観光の魅力を組み込んでいきたい。



開発が予定されている「都市計画道路森町袋井インター通り線」周辺

チャレンジ&スマイル

問 市長はこの言葉にどんな思いを込め市政運営に当たられるのか。

答 「挑戦する人を応援する文化」を市民とともに育み、昨日よりも今日、今日よりも明日の暮らしが向上し、笑顔と賑わいがあふれる「スマイルシティふくろい」の実現に向け全力を尽くしていきたい。



すずき
鈴木

よしかず
賢和
議員



GIGAスクール端末

問 更新対象となる学習用端末の規模と計画は。

答 本年12月に更新を予定しており、その台数は、小学校で4990台、中学校で2630台のほか、予備機430台を加え、計8050台と見込んでいる。整備・更新に係る費用については、県に造成された基金からの助成や、同じ機種を整備する県内他市町との共同調達、さらには、5年間のリース契約により、費用の抑制や単年度負担の平準化を図る。令和8年度から令和12年度までの5年間の経費について、債務負担行為4億9650万円を予算案に計上している。今後は、7月に調達業者の決定をしたのち、9月以降、各学校に整備内容や必要な手続き、対応などを説明し、12月までに整備・更新をしていきたい。



学習用端末を使用している様子

**被災時のトイレ対策の
強化**

問 家庭内での応急トイレの普及活動は。

答 自主防災隊の協力や防災講話やコミュニティセンターまつり、ふれあい夢市場などのイベント時においても、簡易トイレの展示や設置方法の説明などを行い、周知啓発に努めている。